

証券コード:4768

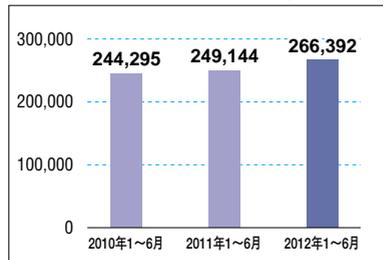
# 大塚商会だより

2012年12月期第2四半期株主通信  
2012年1月1日～2012年6月30日

## 連結

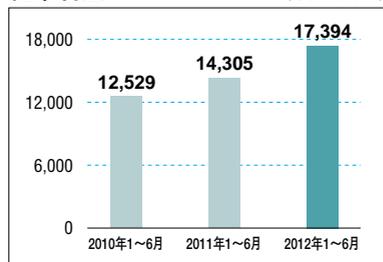
### 売上高

(単位:百万円)



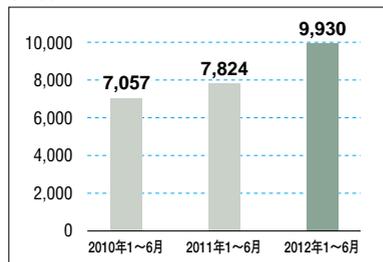
### 経常利益

(単位:百万円)



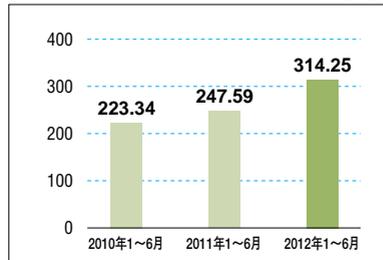
### 純利益

(単位:百万円)



### 1株当たり純利益

(単位:円)



## ミッションステートメント

### 使命

大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

### 目標

- 社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- 従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- 自然や社会とやさしく共存共栄する先進的な企業グループとなる。
- 常に時代にマッチしたビジネスモデルを創出しつづける企業グループとなる。

### 行動指針

- 常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- 先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- 法を遵守し、社会のルールに則して行動する。



大塚商会

## 目次

● 株主の皆様へ	1	● 大塚商会IRサイトのご案内	9
● 事業の概況	2	● 連結財務諸表(要旨)	10
● 通期の見通し	6	● 会社の概要・役員	12
● トピックス	8	● 株式の状況	13

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

本「大塚商会だより」に記載しております業績予想など将来についての事項は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因があるため、その結果について、当社グループが保証するものではありません。

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに、当社グループの2012年第2四半期連結累計期間(2012年1月1日から2012年6月30日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当期間につきましては、国内経済は緩やかな回復基調となり、企業のIT投資は底堅く推移しました。

当社グループではお客様との接点を強化し、お客様のコスト削減や生産性向上、電力使用量削減につながる提案を積極的に行いました。

この結果、売上高は2,663億92百万円(前年同期比6.9%増)となり、過去最高額を更新しました。利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加と販売費及び一般管理費のコントロールにより、営業利益168億91百万円(前年同期比21.1%増)、経常利益173億94百万円(前年同期比21.6%増)、四半期純利益99億30百万円(前年同期比26.9%増)となりました。

通期につきましては、国内経済の先行きは不透明な状況ですが、当社グループでは営業力、提案力、サポート力のさらなる向上により、お客様のIT活用ニーズを顕在化させてまいります。通期の連結業績予想につきましては、売上高5,029億円(前年同期比5.2%増)、営業利益266億円(前年同期比15.2%増)、経常利益273億円(前年同期比17.1%増)、当期純利益152億70百万円(前年同期比19.8%増)に修正いたしました。

当社グループでは今後も「ミッションステートメント」の具現化に努め、皆様の信頼に応えられるよう経営改革を進めてまいります。

株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2012年9月

代表取締役社長 大塚 裕司

# 事業の概況

## 国内景気は緩やかに回復基調

当第2四半期連結累計期間(2012年1月1日～2012年6月30日)におけるわが国経済は、欧州債務問題の影響や中国など新興国の景気減速の懸念もあり、海外景気の下振れリスクに対して国内企業の慎重な姿勢がみられましたが、復興需要や設備投資の持ち直しなどにより、緩やかな回復基調となりました。

このような経済状況にあって国内企業のIT投資は、慎重さを伴いながらもシステムの更新や節電対策、BCP(事業継続計画)構築、タブレット端末の活用などの需要に支えられ、底堅く推移しました。

## コスト削減、生産性向上につながる提案

このような環境において当社グループは、「お客様の目線で信頼に応え、オフィスを元気にする」を2012年度のスローガンに掲げ、お客様との接点を強化しコスト削減や生産性向上による競争力強化につながるシステム提案、節電対策に有効な提案を積極的に行いました。また複数の製品やサービスを組み合わせたパック商材の整備・拡充、魅力ある保守サービスメニューの開発などストックビジネスの強化を通じて、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築することによる収益基盤の充実を図りました。

### 外部環境

#### 国内景気は緩やかに回復傾向

世界経済は弱い回復、欧州債務危機の継続  
輸出は持ち直しの動き、為替・株価は不安定  
生産は緩やかに持ち直し傾向、電力供給懸念  
タイ洪水の影響による、一部商材の不足  
倒産件数は横ばい、設備投資は持ち直し傾向

IT投資は底堅く推移

### 当社グループの取り組み

コスト削減、生産性向上、競争力強化につながるシステム提案  
お客様接点の強化、フロントライン強化  
「全員参加型」の活動  
ストックビジネス強化「たのめーる」、「たよれーる」  
BCP対策、電力使用量削減の提案  
代替提案による、タイ洪水影響の回避

## 増収、二割の増益

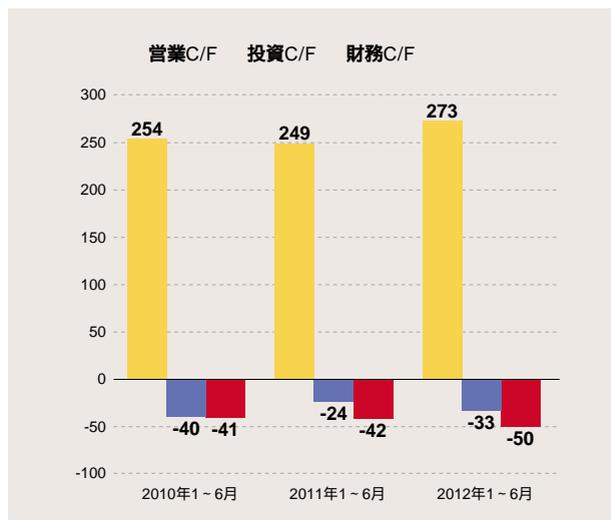
以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,663億92百万円(前年同期比6.9%増)となりました。利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加と販売費及び一般管理費のコントロールにより、営業利益168億91百万円(前年同期比21.1%増)、経常利益173億94百万円(前年同期比21.6%増)、四半期純利益99億30百万円(前年同期比26.9%増)となりました。

(単位：百万円)

	2011年1～6月	2012年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	249,144	<b>266,392</b>	<b>+6.9%</b>
営業利益	13,943	<b>16,891</b>	<b>+21.1%</b>
経常利益	14,305	<b>17,394</b>	<b>+21.6%</b>
純利益	7,824	<b>9,930</b>	<b>+26.9%</b>

## キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加などにより273億63百万円(前年同期比24億50百万円増)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出が増加したことなどにより、33億43百万円(前年同期比8億65百万円増)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額が増加したことなどにより、50億37百万円(前年同期比8億31百万円増)となりました。

## 四半期別の概況

### 売上高の推移

売上高は、第1四半期(1~3月)においては、前年同期に震災の影響があったこともあり、高伸長となりました。第2四半期(4~6月)においても、増収となりました。

2012年第1四半期(1~3月)売上高は、1,354億58百万円(前年同期比9.3%増)となり、2012年第2四半期(4~6月)売上高は、1,309億33百万円(前年同期比4.6%増)となりました。

### 経常利益の推移

経常利益については、第1四半期(1~3月)、第2四半期(4~6月)とも、売上総利益の増加が販売費及び一般管理費の増加を上回ったため、増益となりました。

2012年第1四半期(1~3月)経常利益は、72億24百万円(前年同期比36.5%増)となり、2012年第2四半期(4~6月)経常利益は、101億69百万円(前年同期比12.8%増)となりました。

売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



## 事業セグメント別の概況

### システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、企業におけるシステム更新需要やIT投資に積極的な企業の需要を掴み、売上高は1,531億2百万円(前年同期比8.4%増)となりました。

### サービス&サポート事業

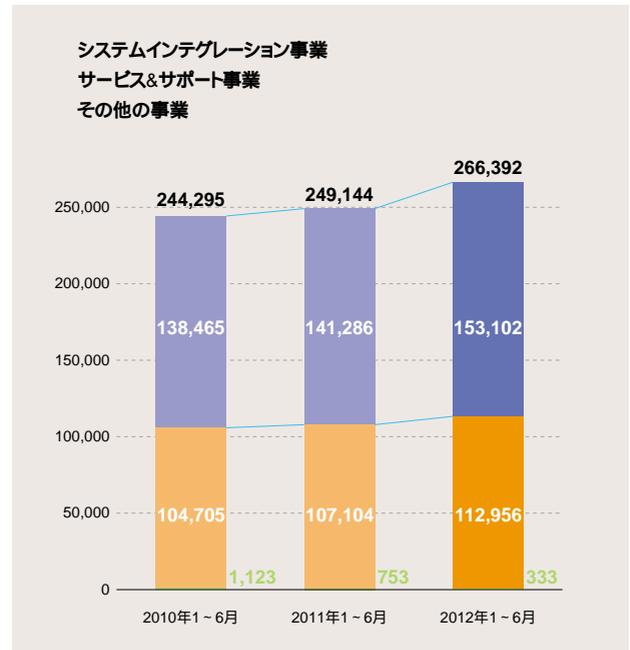
サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービスなどにより導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめる」を堅調に伸ばし、保守等についても前年増となり、売上高は1,129億56百万円(前年同期比5.5%増)となりました。

### その他の事業

その他の事業では、売上高は3億33百万円(前年同期比55.7%減)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位:百万円)



## 通期の見通し

### 企業のIT投資は底堅く推移すると予想

今後、国内では震災の復興需要や企業収益の改善により企業の設備投資の緩やかな持ち直しが期待できます。しかし、国内の電力不足や原子力災害の影響、欧州債務問題や新興国の景気減速の懸念など国内景気が下押しされるリスクが存在し、依然として国内経済の先行きは不透明な状況にあります。

このような経済環境のもとで、企業のIT投資は慎重さを伴いながらも、底堅く推移するものと予想されます。西暦2000年問題対応のために導入したシステムの更新需要二巡目、IPv6対応などによる買い換え、タブレット端末の活用などによるIT市場の活性化や新たな市場の創出が期待されています。また昨年に引き続き、省電力パソコンやサーバの導入、サーバの統合化、省電力機器やLED照明を利用したBEMS(ビルエネルギー管理システム)の導入など電力使用量削減と、バックアップサービスやASPなどのデータセンター利用によるBCP対策が企業に必要とされています。

### お客様との接点を強化

このような経済状況や企業のIT投資動向に対する見通しを前提として、当社グループは地域密着型運営体制のさらなる強化のもと、お客様との接点を強化してワンストップソリューション、ワンストップサポートに磨きをかけ、コスト削減や生産性向上などお客様の問題解決につながるシステム提案を積極的に行い、当社グループの持つ総合力を今まで以上に発揮していきます。

## 2012年の方針と施策

### スローガン

『お客様の目線で信頼に応え、オフィスを元気にする』

ワンストップソリューション、ワンストップサポートに磨きをかけ、お客様接点を強化

ITニーズ、省エネニーズを顕在化させる

顧客深耕と新規開拓を並行して進める

総合提案・複合提案の推進

ストックビジネス強化

また複数の製品やサービスを組み合わせたパック商材の整備・拡充による品揃え、魅力ある保守サービスメニューの開発などストックビジネスを強化し、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築し収益基盤の充実を図ります。

### セグメント別の施策

システムインテグレーション事業では、企業のIT投資動向やIT活用ニーズを見極めながら、複写機、コンピュータ、FAX、電話機、回線などを組み合わせた複合システム提案や総合提案をさらに推進します。

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」において、商材の拡充、プライベートブランド商品「TANOSEE」の充実などを図ります。また、サポート事業「たよれーる」において、システムインテグレーション事業での成果を保守等のサービス契約増につなげ、併せてハードウェアに依存しない新しいサービスを増やします。

### 通期の業績予想

以上を踏まえ、2012年2月1日に発表した通期の連結業績予想を、以下の通り修正いたします。

売上高5,029億円(前年同期比5.2%増)、営業利益266億円(前年同期比15.2%増)、経常利益273億円(前年同期比17.1%増)、当期純利益152億70百万円(前年同期比19.8%増)。

セグメント別の売上高では、システムインテグレーション事業が2,773億80百万円(前年同期比5.7%増)、サービス&サポート事業が2,248億円(前年同期比4.8%増)、その他の事業が7億20百万円(前年同期比36.3%減)。

売上高・利益計画

(単位:百万円)

	2011年 12月期	2012年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
売上高	478,215	502,900	+5.2%
営業利益	23,095	26,600	+15.2%
経常利益	23,315	27,300	+17.1%
当期純利益	12,744	15,270	+19.8%

セグメント別売上高計画

(単位:百万円)

	2011年 12月期	2012年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
システムインテグレーション事業	262,508	277,380	+5.7%
サービス&サポート事業	214,576	224,800	+4.8%
その他の事業	1,130	720	-36.3%

# トピックス

## 海外での植林活動

創業50周年事業の一環として、海外での植林活動を行いました。

ブラジル・アマパ州、赤道直下マカパのサバンナ地帯150ヘクタール(東京ドーム32個分)の土地に、ユーカリ17万本を植樹しました。

植樹したユーカリは6年で成長し、伐採され紙の原料となります。この原料を使用する「たのくんの森」ブランドのコピー用紙を商品化する予定です。



今後も私たちは、さまざまな分野で社会貢献活動・環境保全活動に取り組んでまいります。

# 大塚商会IRサイトのご案内

当社グループの開示資料、財務情報、株式情報などをご覧ください。

## 株式会社大塚商会ホームページ IR情報

掲載内容は2012年8月25日現在のものであり、変更する場合があります。

**主な内容:** IRニュース( 適時開示情報 等 )  
IRカレンダー  
IRライブラリ( 決算短信、決算説明資料、  
決算説明会動画配信、有価証券報告書、  
アニュアルレポート、大塚商会だより 等 )

財務情報( 連結財務ハイライト、各種経営指標 )  
株式関連情報( 株主構成、株式手続き、  
株主総会招集通知、株主総会決議通知 等 )  
株価情報



<http://www.otsuka-shokai.co.jp/ir/>

# 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	
	前第2四半期連結会計期間末 (2011年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (2012年6月30日)
	金額	金額
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>169,576</b>	<b>191,256</b>
現金及び預金	49,003	63,613
受取手形及び売掛金	82,349	85,737
その他	38,223	41,904
<b>固定資産</b>	<b>65,070</b>	<b>65,191</b>
有形固定資産	47,661	46,186
無形固定資産	5,523	4,937
投資その他の資産	11,885	14,067
<b>資産合計</b>	<b>234,647</b>	<b>256,447</b>

(単位:百万円)

科目	期別	
	前第2四半期連結会計期間末 (2011年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (2012年6月30日)
	金額	金額
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>118,376</b>	<b>128,497</b>
支払手形及び買掛金	74,873	79,485
短期借入金	7,430	7,300
その他	36,073	41,711
<b>固定負債</b>	<b>3,805</b>	<b>5,281</b>
退職給付引当金	1,819	2,055
その他	1,986	3,226
<b>負債合計</b>	<b>122,181</b>	<b>133,778</b>
<b>(純資産の部)</b>		
<b>株主資本</b>	<b>125,892</b>	<b>135,844</b>
資本金	10,374	10,374
資本剰余金	16,254	16,254
利益剰余金	99,388	109,340
自己株式	125	126
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>14,137</b>	<b>13,970</b>
その他有価証券評価差額金	320	484
土地再評価差額金	14,331	14,304
為替換算調整勘定	126	150
<b>少数株主持分</b>	<b>711</b>	<b>795</b>
<b>純資産合計</b>	<b>112,466</b>	<b>122,669</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>234,647</b>	<b>256,447</b>

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 資産の状況

流動資産が前年同期末に比べ216億79百万円増加し、1,912億56百万円となりました。固定資産は1億21百万円増加し、651億91百万円となりました。総資産は218億円増加し、2,564億47百万円となりました。

### 自己資本比率

自己資本比率は前年同期末に比べ0.1ポイント低下し、47.5%となりました。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自2011年1月1日 至2011年6月30日)	(自2012年1月1日 至2012年6月30日)
科 目	金 額	金 額
売上高	249,144	266,392
売上原価	193,834	206,240
売上総利益	55,309	60,151
販売費及び一般管理費	41,366	43,259
営業利益	13,943	16,891
営業外収益	401	539
営業外費用	39	37
経常利益	14,305	17,394
特別利益	21	1
特別損失	783	332
税金等調整前四半期純利益	13,544	17,063
法人税等	5,660	7,057
少数株主損益調整前四半期純利益	7,883	10,005
少数株主利益	59	74
四半期純利益	7,824	9,930

### 売上高の状況

売上高が前年同様に比べ172億48百万円増加しました。

### 営業利益の状況

売上総利益の増加と販売費及び一般管理費のコントロールにより、営業利益は前年同様に比べ29億48百万円増加しました。

### 純利益の状況

営業利益の増加などにより、純利益が前年同様に比べ21億6百万円増加しました。

## 連結包括利益計算書

(単位:百万円)

期 別	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自2011年1月1日 至2011年6月30日)	(自2012年1月1日 至2012年6月30日)
科 目	金 額	金 額
少数株主損益調整前四半期純利益	7,883	10,005
その他の包括利益	58	207
四半期包括利益	7,824	10,213
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,766	10,138
少数株主に係る四半期包括利益	58	75

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自2011年1月1日 至2011年6月30日)	(自2012年1月1日 至2012年6月30日)
科 目	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,913	27,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,477	3,343
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,206	5,037
現金及び現金同等物の増加額	18,229	18,982
現金及び現金同等物の期首残高	37,924	52,320
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増加額	71	
現金及び現金同等物の四半期末残高	56,225	71,302

### キャッシュ・フローの状況

営業活動から得られた資金は、税金等調整前四半期純利益の増加などにより前年同様に比べ24億50百万円増加し、273億63百万円となりました。

投資活動に使用した資金は、投資有価証券の取得による支出が増加したことなどにより前年同様に比べ8億65百万円増加し、33億43百万円となりました。

財務活動に使用した資金は、配当金の支払額が増加したことなどにより前年同様に比べ8億31百万円増加し、50億37百万円となりました。

# 会社の概要・役員

## 会社の概要(2012年6月30日現在)

商号：株式会社大塚商会  
 創業：1961年7月17日(設立:1961年12月13日)  
 資本金：10,374,851,000円  
 従業員：6,762名(連結子会社を含めた従業員数:8,272名)  
 事業内容：システムインテグレーション事業  
           コンピュータ、複写機、通信機器、ソフトウェアの販売  
           及び受託ソフトの開発等  
           サービス&サポート事業  
           サプライ供給、保守、教育支援等  
 主要取引銀行：株式会社横浜銀行  
                   株式会社三菱東京UFJ銀行  
                   株式会社みずほ銀行

## 主要事業拠点及び連結子会社(2012年6月30日現在)

本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4  
           TEL.03-3264-7111(代表)  
 関西支社 〒553-8558 大阪府大阪市福島区福島6-14-1  
           TEL.06-6456-2711(代表)  
 地域営業部 中央第一営業部 中央第二営業部 神奈川営業部  
           城西営業部 多摩営業部 城北営業部 北関東営業部  
           京葉営業部 大阪北営業部 大阪南営業部  
 支店 札幌支店 仙台支店 宇都宮支店 中部支店  
           京都支店 神戸支店 広島支店 九州支店  
 連結子会社 (株)OSK / (株)ネットプラン / (株)アルファシステム /  
           (株)ネットワールド / (株)アルファテクノ /  
           (株)アルファネット / 大塚オートサービス(株) /  
           (株)大塚ビジネスサービス

## 役員(2012年7月1日現在)

代表取締役社長	大塚裕司
取締役兼専務執行役員	大瀨片倉一幸
取締役兼専務執行役員	高橋俊泰
取締役兼専務執行役員	高塩川公男
取締役兼上席常務執行役員	矢野克尚
取締役兼常務執行役員	若藤廣伸
取締役兼常務執行役員	山藤博司
取締役兼上席執行役員	山見瀬裕光
取締役兼上席執行役員	松井信哉
取締役兼上席執行役員	桜井実
常勤監査役	中野清郎
監査役	杉野二
監査役	杉山幹一
監査役	仲井一彦
相談役 名誉会長	大塚実
主席執行役員	田中修彦
主席執行役員	森谷紀彦
上席執行役員	藤野卓雄
上席執行役員	奥山悦介
上席執行役員	水谷和亮
上席執行役員	後藤俊彦
上席執行役員	大西雄一
上席執行役員	関岡淳弘
上席執行役員	植口野明
執行役員	三浦秀聖
執行役員	小瀬村美雄
執行役員	安達多市
執行役員	本坂周英
執行役員	長坂夫
執行役員	清野秀治
執行役員	斎藤健

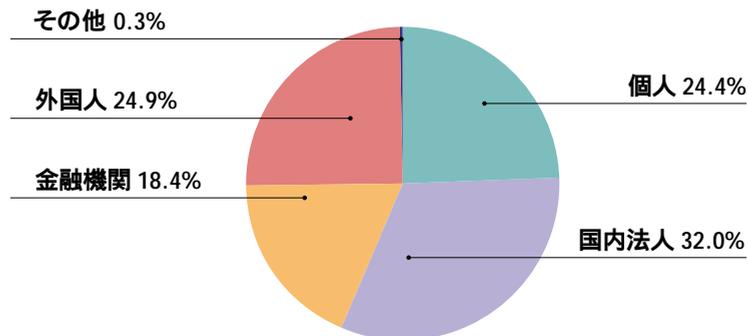
## 株式の状況(2012年6月30日現在)

発行可能株式総数	112,860,000株
発行済株式の総数	31,667,020株
単元株式数	100株
株主数	4,544名

### 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)	持株数(株)	持株比率(%)
大塚装備株式会社	9,788,330	30.91	-	-
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,421,800	4.48	-	-
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,299,000	4.10	-	-
大塚商会社員持株会	1,162,420	3.67	-	-
大塚 裕司	946,980	2.99	-	-
大塚 厚志	945,950	2.98	-	-
大塚 実	945,490	2.98	-	-
大塚 照恵	645,500	2.03	-	-
シービーニューヨーク オフィス エスアイシーアーヴィー	569,800	1.79	-	-
サジャップ	533,000	1.68	-	-

### 所有者別株式分布状況(株式数ベース)



## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	毎年12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	フリーダイヤル:0120-782-031
公告掲載	大塚商会ホームページに掲載 <a href="http://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/ir/stocks/public_notice/index.html">http://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/ir/stocks/public_notice/index.html</a>

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 TEL. 03-3264-7111  
<http://www.otsuka-shokai.co.jp>

